

# 公益財団法人沖縄県文化芸術振興会第2次中長期計画の概要

[期間：R7.4.1～R12.3.31 5年]

R7.4 沖縄県文化芸術振興会

## 【策定の意義等】

- 第1次計画（H27～R3）の策定後9年余の文化芸術をめぐる社会情勢の変化や県における「沖縄県文化芸術振興計画」の策定
- 県における公文書管理条例の制定や「デジタルアーカイブ社会」の実現に向けた取組みの本格化
- 「沖縄県立芸能シアター（仮称）」の整備の見通しが立たない中での過大な事務所賃借料等による財務のひっ迫などを踏まえ、県行政を補完する公益法人としての目指すべき姿や財団運営の基本方針、実施すべき施策展開などを明らかにするもの。  
沖縄県をはじめとする関係機関との連携・協力による計画の着実な実施により

沖縄県と両輪となった沖縄の文化芸術を牽引する組織としての役割の発揮と持続可能な財団運営の確保を図る

## 【全体像】

目指すべき姿	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>文化芸術の総合相談支援機関としての役割の発揮による沖縄県文化芸術振興条例に掲げる理念の実現</u></li><li>■ <u>指定管理の受託等による沖縄県公文書等の管理に関する条例などを踏まえた適正な公文書管理の実施</u></li><li>■ <u>適正な実施体制の確保や財務状況の改善等による持続的で安定した財団運営の確保</u></li></ul>
基本方針	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>文化芸術の継承・発展と活動環境の整備、県民の参画、アーツカウンシル機能の強化、他分野連携の推進</u> など</li><li>■ <u>職員適正化計画に基づく職員の適正配置や業務の改善・効率化等による公文書館サービスの向上</u> など</li><li>■ <u>組織運営体制の強化や安定的な運営資金の確保、固定経費の削減、業務の効率化等の推進</u> など</li></ul>
施策展開	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>文化芸術活動支援の拡充、県民の理解促進、関係機関による推進体制の構築、情報発信の強化</u> など</li><li>■ <u>組織基盤の強化や公文書館の利用促進、危機管理対策の強化、新たな事業展開の検討</u> など</li><li>■ <u>人材育成や専門人材の確保等による運営体制の強化、DXの推進や財源確保の多様化、事務所移転の検討</u> など</li></ul>
進捗管理	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>毎年度の進捗状況の検証と中間評価の実施による計画の見直し等</u></li></ul>

## 第一章 総説（計画策定の背景）

社会情勢	国の動向	県の動向
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少等による担い手の減少やコロナ禍後の体験格差の拡大</li> <li>・DXの進展やAI等の技術革新の広がり</li> <li>・文化芸術の持つ多様な価値への国民意識の変化</li> <li>・公文書の保存や継承、活用の重要性への認識の高まり</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術推進基本計画（第2期）の策定（R5.3）</li> <li>・文化芸術と観光、教育等の他分野連携の推進</li> <li>・障害者の社会参画の推進による多様性を尊重する社会の実現</li> <li>・自治体における積極的な公文書管理の推進</li> <li>・国民の知的活動を支えるデジタルアーカイブ社会の実現</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県文化芸術振興計画の策定（R5.3）</li> <li>・観光その他産業との連携や魅力ある地域づくりによる心豊かで活力のある社会の実現</li> <li>・文化芸術によるグローバルな交流ネットワークの形成</li> <li>・沖縄県公文書等の管理に関する条例の制定、特定歴史公文書等の適切な保存と利用の推進</li> <li>・デジタルアーカイブの推進と活用</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

## 第二章 現状と課題

文化芸術事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の養成と後継者の育成</li> <li>・担い手が能力を発揮できない環境（収入、不当契約、ハラスメント、理解不足等）</li> <li>・社会的及び経済的要因による体験格差の拡大</li> <li>・アーツカウンシル機能の強化</li> <li>・他分野連携の推進</li> <li>・文化芸術振興のための市町村や県、国等の関係機関による連携体制の構築</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
公文書管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職員の確保等による指定管理受託の優位性の向上</li> <li>・専門的知識や技能を生かした新たな事業の展開</li> <li>・利用者意見等を踏まえたサービスの向上による公文書館利用の促進</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
財団組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術プロパー職員の不在等によるノウハウや人的ネットワーク等の蓄積や継承の断絶</li> <li>・正規職員の不足による発展的な運営への懸念（非正規職員：81%）</li> <li>・長期的視点に立った研修カリキュラムの導入</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
財務の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本財産（自主財源）の不足により自主事業の展開が困難</li> <li>・事務所賃借料等の固定費の増加による財務のひっ迫</li> <li>・県からの補助金や委託料等の減少による文化芸術分野における全体的な事業の縮小</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

### 第三章 目指すべき姿と財団運営の基本方針

事業を支える土台

- **組織運営体制**
  - ・ 持続的で安定した取組みや支援を行える体制の構築（ノウハウの蓄積や人材育成によるスキルアップなど）
  - ・ 多様な社会的ニーズに応えられる体制の構築、培ってきた知識や技能を活用した公文書の適正管理等
- **財務の改善**
  - ・ 委託料や補助金、自主財源等の 安定的な運営資金の確保
  - ・ DXの推進による業務の効率化とコストの削減
  - ・ 過大な固定経費（事務所賃借料等）の削減
  - ・ 戦略的な寄付金や賛助会員の募集体制の整備

#### 文化芸術事業

- ・ 当会の支援実績：沖縄の文化芸術の発展に一定の役割を發揮（助成金の交付、伴走支援、情報発信、担い手の育成など）
- ・ 実態調査により明らかとなった活動現場における課題等（活動環境の改善、県民の参画、他分野連携の推進など）

県行政との連携による支援の強化や、文化芸術活動に係る情報の発信、さらには全県的なネットワークの構築や文化芸術団体の取りまとめなどの役割や機能の發揮

沖縄における文化芸術の総合相談支援機関

#### 公文書管理事業

##### 公文書館のサービス水準の維持・向上

- ① 歴史的公文書等の収集、整理、保存の推進
- ② 利用者視点に立ったサービスの向上
- ③ 利用者が快適に利用できる施設環境の提供
- ④ 業務の効率化と質の向上
- ⑤ 利用者等の権利利益・安全の確保
- ⑥ 公益性、非営利性、透明性の高い運営

2つの公益事業の実施

#### 県条例に掲げる理念等の実現

- 沖縄県文化芸術振興条例（第2条）に掲げる理念が適切に反映された社会の実現
  - ・ 担い手である県民の自主性の尊重 ・ 担い手の能力が十分に発揮される環境や県民が年齢、性別等にかかわらず体験できる環境の整備 など
- 沖縄県公文書等の管理に関する条例（第1条）に掲げる目的を実現するための公文書管理システムの構築
  - ・ 公文書の適正な管理等により、県政の適正かつ効率的な運営を確保するとともに県民への説明責任が全うされること など

### 第三章 目指すべき姿と財団運営の基本方針

### 第四章 施策の展開

	基本方針	施策展開
文化芸術事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術の継承・発展と活動環境の充実</li> <li>文化芸術への県民の参画による心豊かな社会の実現</li> <li>アーツカウンシルのプログラムの拡充と認知度向上</li> <li>県行政との連携による他分野連携の推進</li> <li>関係機関との連携強化やネットワークの構築 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の理解促進や社会全体で課題を解決する機運の醸成</li> <li>体験機会の創出や情報を的確に得られる環境の整備</li> <li>職員の資質向上や市町村連携による安定した制度運営</li> <li>他分野連携の例示や県等と連携した推進体制の構築等</li> <li>相談支援や情報発信、文化芸術振興拠点整備の検討 など</li> </ul>
公文書管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>公文書管理の重要性を踏まえた社会的役割の発揮</li> <li>「デジタルアーカイブ社会」実現への貢献</li> <li>業務量の増や県民ニーズ対応のための専門職員の配置</li> <li>高い専門性を有する人材の育成及び確保 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツールの充実やデジタルアーカイブの推進等による利便性向上</li> <li>多様化する記録方式への対応と危機管理対策</li> <li>ノウハウのマニュアル化等による事務・サービスの向上</li> <li>財源確保や社会的役割の発揮のため新規事業の展開 など</li> </ul>
財団組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の適正配置や雇用形態の見直し</li> <li>実施体制の強化や事務の効率化</li> <li>人材育成や専門的な人材確保の強化 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロパー職員や県派遣職員を含めた職員の適正配置</li> <li>事務・事業推進のための班の設置やDX戦略の導入等</li> <li>職員の能力開発等のための研修の実施や県との人事交流 など</li> </ul>
財務の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主財源を含めた安定的な運営資金の確保</li> <li>固定経費（事務所賃借料等）の削減による財務の改善</li> <li>戦略的な寄付金や賛助会員の募集体制の整備 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県補助金等の適正な確保や財源確保の多様化等</li> <li>公文書館をはじめとした他施設への事務所移転の検討</li> <li>DXによる業務の効率化やオンライン寄付受付窓口の構築 など</li> </ul>



### 第五章 計画の進捗管理（進捗管理の徹底による計画の着実な実施）

本計画の着実な実施と社会情勢の変化等に適切かつ機動的に対応するための、当計画の実施状況の毎年度の検証と2年経過後の中間評価による見直しの実施等